

強化戦略プラン

【冬季：2026/2030】

カーリング・男子，女子，ミックスダブルス

2022/06/30

強化責任者 柳 等

役職名 強化委員長

連絡先：

E-mail：

強化戦略プラン（カーリング・男子, 女子, ミックスダブルス）

バージョン管理

強化戦略プランの改定履歴を記載する。

バージョン	日付	作成・改定者	修正・変更点
1.0	令和4年6月30日	柳等	

○バージョン管理

年度内での更新： 小数点に1を加算 例) 1.0 → 1.1

年度をまたぐ更新： 整数に1を加算 例) 1.0 → 2.0

目次

目次.....	3
1. 現状把握.....	4
1-1：競技や種目における歴史と背景	4
1-2：現状の国際競技力	5
1-3：国際競技力向上に向けた強みと弱み.....	9
2. 中長期計画	10
2-1：育成・強化のためのアスリートパスウェイ.....	10
2-2：4年プラン.....	12
2-2-1：目標（現状可能な目標）とマイルストーン.....	12
2-2-2：目標達成のための戦略方針	15
2-2-3：ターゲットアスリート、指導者（コーチ）、強化スタッフ.....	17
2-3：8年プラン.....	18
2-3-1：目標（現状可能な目標）とマイルストーン.....	18
2-3-2：8年後の目標達成を見据えた育成・強化の基本方針.....	19
2-3-3：ターゲットアスリート、指導者（コーチ）・強化スタッフ.....	19
3. 強化戦略プラン推進体制と環境整備	21
3-1：拠点.....	21
3-2：強化戦略プラン推進体制	21
4. 別添資料.....	21

1. 現状把握

1-1：競技や種目における歴史と背景

<男子>

オリンピック冬季競技大会のカーリングは1998年の長野大会で正式メダル種目となった。日本男子は1998年長野大会と2018年平昌大会に出場している。平昌大会にはSC軽井沢クラブが出場し、7位に入賞した。平昌大会に出場したSC軽井沢クラブのチームは解散したが、元メンバーがそれぞれ別のチームで活動を始め、国内で競合するチームが複数誕生した。その後、日本代表となったのはコンサドーレであった。コンサドーレは日本カーリング選手権大会（JCC）を三連覇し、安定した力を発揮してきた。さらに、2018年パシフィックアジアカーリング選手権大会で優勝、2019年世界男子カーリング選手権大会（WMCC）で4位入賞した。世界カーリング連盟(WCF)世界チームランキングは16位まで上昇し、グランドスラム大会に出場するなど強化の好循環に入ることができ、北京大会へ連続出場が期待された。2020年WMCCは新型コロナウイルス感染症の影響で中止。2021年WMCCでは9位となり、北京大会の出場権を懸けたオリンピック最終予選大会(OQE)に進むこととなった。チームは2021年10月から11月末までカナダでアーセルコーチとともに海外強化合宿を実施し、グランドスラム大会を含む国際ツアー大会5大会に出場し、国際試合経験を積んでOQEに臨んだ。OQEの結果は6位で予選敗退となり、北京大会への出場は逃すこととなった。その要因として、コロナ禍で国内ツアー大会が中止になったこと、ミックスダブルス日本代表決定戦が9月に延期になったこと、それによって海外強化合宿の開始が遅れたこと、ミックスダブルスと兼任している選手がいたため万全な状態でOQEに臨むことができなかったことが挙げられる。

2022年世界選手権最終予選には、2022年世界カーリング選手権日本代表選考会を制した常呂ジュニアが出場した。3勝3敗で5位となり、予選敗退となり、2022年WMCC出場権を獲得できなかった。

常呂ジュニアは2022年世界ジュニアBカーリング選手権大会にも出場した。予選グループCで5戦全勝としたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため大会が中止となってしまい、惜しくも2022年世界ジュニアカーリング選手権大会の出場権を獲得することはできなかった。

<女子>

日本女子は長野大会以来7大会連続でオリンピックに出場している。2018年平昌大会には、2016年世界女子カーリング選手権大会準優勝のLS北見（藤澤五月、吉田智那美、鈴木夕湖、吉田夕梨花、本橋麻里）が日本代表として出場。イギリスとの3位決定戦を制し、初の銅メダル獲得となった。北京大会に向けての課題は、国内の強化チーム間で切磋琢磨し、世界のトップを争えるように国際競技力を向上させること、より多くの強化チームを海外強化合宿に派遣して多くの国際試合経験を積みさせることであった。

2022年北京大会の日本代表選手の選考では、第37回日本カーリング選手権大会優勝のロコソラーレと第38回同大会優勝の北海道銀行を対象となった。二チーム間でベストオブファイブの試合形式の日本代表決定戦を2021年9月に実施した。ロコソラーレが3勝2敗で決定戦を優勝し、藤澤五月、吉田知那美、鈴木夕湖、吉田夕梨花、石崎琴美が日本代表として選出された。チームはリンドナショナルコーチと合流し、同年10月から11月にかけてグランドスラムやワールドカーリングツアーなど計四大会に参戦。国際試合経験を積んだ後、同年12月オランダで開催されたオリンピック最終予選会に臨んだ。ラウンドロビンを2位で通過し、大韓民国とのプレーオフを制し、北京大会の出場権を獲得した。2022年北京大会には同選手5名が出場した。予選を5勝4敗で通過し、準決勝でスイスを8-6で下し、初の決勝進出を果たした。決勝ではイギリスに敗れ準優勝となり、銀メダルを獲得した。二大会連続メダル獲得となった。

日本女子は国内での競争が激化し、世界女子カーリング選手権大会には毎年異なるチームが出場している。2018年は富士急（10位）、2019年は中部電力（4位）、20年はロコソラーレ（新型コロナウイルス感染症の影響により中止）、2021年は北海道銀行（現フォルティウス）（11位）である。また、日本選手権

大会 3 位の北海道銀行、2022 年世界ジュニアカーリング選手権大会優勝の SC 軽井沢クラブ Jr.など、若手選手のチームも台頭してきている。

<ミックスダブルス>

ミックスダブルスカーリングは、2018 年平昌大会から採用された種目で、8 チームで実施された。2022 年北京大会では 10 チームで行われている。残念ながら日本は二大会ともに出場を逃している。

2017 年世界ミックスダブルスカーリング選手大会（WMDCC）には、小笠原・阿部が出場し、

2018 年と 2019 年の世界ミックスダブルスカーリング選手大会（WMDCC）には、日本代表として藤澤・山口が出場し、連続で 5 位入賞を果たした。2020 年 WMDCC 日本代表は松村・谷田であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で大会が中止となった。2021 年 WMDCC には吉田・松村が出場し、予選グループ B で 8 位（3 勝 6 敗）、全体で 15 位であった。北京大会のオリンピック最終予選会には、2021 年 9 月の日本代表決定戦を制した松村・谷田が出場。予選グループ B で 6 位（2 勝 4 敗）で敗退。オリンピック出場権を獲得することはできなかった。

2022 年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会(WMDCC)には、日本代表として松村・谷田が出場した。予選グループ A5 位（6 勝 3 敗）、全体で 9 位という成績であった。この大会では、オリンピック最終予選での経験をいかし、ミックスダブルスにおける特有の戦略やアイスリーディングスキルが大きく改善され、プレーオフ進出まであと 1 勝という結果であった。国際大会への慣れが今後の課題である。

ところで、カナダ、スウェーデン、スコットランドなどの世界の強豪国においては、四人制チームのトップ選手で構成するチームで世界選手権大会に臨む傾向にある。我が国では 2016-17 シーズンから同様な方法を採用している。日本ミックスダブルスカーリング選手権大会には、前年度優勝チームと準優勝チーム、さらに四人制の強化チームの選手で構成するチーム（強化委員会推薦チーム）を出場させ、競技力の高いチームが選出されるようなシステムを構築している。また、これらの強化チーム間で国内強化合宿を実施し、ミックスダブルスの競技力向上を図ってきた。ミックスダブルス強化チームは、基本的に強化委員会推薦チーム（4 人制トップチームの選手で構成するチーム）であるので、ミックスダブルスの国際ツアー大会等に出場する機会が作るのが難しい。今後は、国際ツアー大会への積極的に参戦することを促し、国際競技力向上を図ることが求められる。

1-2 : 現状の国際競技力

1) 諸外国の動向

<男子>

表 1. 世界カーリング連盟(WCF)世界ランキングの上位十か国（令和 4 年 6 月 30 日現在）。

1 位 スウェーデン	6 位 イタリア
2 位 カナダ	7 位 ノルウェー
3 位 スコットランド	8 位 ロシア
4 位 アメリカ	9 位 韓国
5 位 スイス	10 位 日本

表 2. WCF チームランキング（各国最上位チーム）（令和 4 年 5 月 30 日現在）。

1 位 Gushue（カナダ）	24 位 Shuster（アメリカ）
2 位 Mouat(スコットランド)	30 位 Ramsfjell(ノルウェー)
3 位 Edin（スウェーデン）	31 位 コンサドーレ（日本）
8 位 Retornaz（イタリア）	32 位 Kim（韓国）
14 位 Schwaller（スイス）	36 位 Klima（チェコ）

表 3. 2022 年北京大会の上位チーム（プレーオフ進出チーム）.

1 位 スウェーデン(Edin)	3 位 カナダ (Gushue)
2 位 イギリス (スコットランド) (Mouat)	4 位 アメリカ(Shuster)

表 4. 2022 年世界男子カーリング選手権大会の上位チーム（プレーオフ進出チーム）.

1 位 スウェーデン(Edin)	3 位 イタリア(Retornaz)	5 位 スコットランド(Paterson)
2 位 カナダ(Gushue)	4 位 アメリカ(Shuster)	6 位 スイス(Schwaller)

<女子>

表 5. WCF 世界ランキングの上位十か国（令和 4 年 6 月 30 日現在）.

1 位 スイス	6 位 スコットランド
2 位 スウェーデン	7 位 アメリカ
3 位 韓国	8 位 ロシア
4 位 カナダ	9 位 デンマーク
5 位 日本	10 位 中国

表 6. WCF チームランキング（各国最上位チーム）（令和 4 年 5 月 30 日現在）.

1 位 Hasselborg（スウェーデン）	7 位 E Kim（韓国）
2 位 Fleury（カナダ）	11 位 Peterson（アメリカ）
3 位 Muirhead（スコットランド）	17 位 Jentsch（ドイツ）
5 位 Tirinzoni（スイス）	18 位 Kovaleva（ロシア）
6 位 ロソラーレ（日本）	23 位 Dupont（デンマーク）

表 7. 2022 年北京大会の上位チーム（プレーオフ進出チーム）.

1 位 イギリス (スコットランド) (Muirhead)	3 位 スウェーデン(Hasselborg)
2 位 日本 (ロソラーレ)	4 位 スイス(Tirinzoni)

表 8. 2022 年世界女子カーリング選手権大会の上位チーム（プレーオフ進出チーム）.

1 位 スイス(Tirinzoni)	3 位 カナダ(Einarson)	5 位 アメリカ(Christensen)
2 位 韓国(E Kim)	4 位 スウェーデン(Hasselborg)	6 位 デンマーク(Dupont)

<ミックスダブルス>

表 9. WCF 世界ランキングの上位十か国（令和 4 年 6 月 30 日現在）.

1 位 カナダ	6 位 イタリア	
2 位 ノルウェー	7 位 アメリカ	
3 位 スイス	8 位 チェコ	
4 位 スコットランド	9 位 中国	
5 位 スウェーデン	10 位 オーストラリア	13 位 日本

表 10. WCF チームランキング（各国最上位チーム）（令和 4 年 5 月 30 日現在）.

1 位 Rupp/Wunderlin（スイス）	7 位 Desjardins/Desjardins（カナダ）
2 位 Skaslien/Nedregotten（ノルウェー）	8 位 Sidorova/Timofeev（ロシア）
4 位 Palanca/Kiss（ハンガリー）	10 位 Kaldvee/Lill（エストニア）
5 位 Paulova/Paul（チェコ）	11 位 Kim/Lee（韓国）

6位 Perdinger/Plys (アメリカ)

12位 Gill/Hewitt (オーストラリア)

表 11. 2022年北京オリンピックの上位チーム(プレーオフ進出チーム).

1位 イタリア(Constantini/Mosaner) 3位 スウェーデン(De Val/Eriksson)
2位 ノルウェー(Skaslien/Nedregotten) 4位 イギリス(スコットランド)(Dodds/Mouat)

表 12. 2022年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会の上位チーム(プレーオフ進出チーム).

1位 スコットランド 3位 ドイツ 5位 カナダ
(Muirhead/Lammie) (Schoell/Harsch) (Peterman/Gallant)
2位 スイス 4位 ノルウェー 6位 スウェーデン
(Paetz/Michel) (Ramsfjell/ Ramsfjell) (Wranaa/Wranaa)

2) 自国

<男子>

令和4年5月30日現在のWCF世界チームランキングから日本チームのランキングを見ると、31位コンサドーレ、136位SC軽井沢クラブ、157位札幌国際大学、170位常呂ジュニアとなっている。日本男子は全体的に低い結果となった。本会の強化方針は、より多くの強化チームに、海外強化合宿を実施させて、国際試合経験を積ませることである。残念ながら、新型コロナウイルス感染症の影響で、海外強化合宿を実施できず、ランキングのポイントを獲得できなかったためといえる。

本会の強化対象(強化チームA, B, C)は前年度日本カーリング選手権大会(JCC)成績によって決まる。以前は、強化チームとしてJCC最上位2チームのみを対象としたが、現在は4チームにまで拡大した。より多くの強化チームを海外強化合宿に派遣し、どのチームが日本代表になっても世界で戦える国際競技力を高めるためである。表13に2018年～2022年JCC上位成績チームを示した。令和4年度強化チームには、A SC軽井沢クラブ、B 札幌国際大学、C コンサドーレおよび北見協会が該当する。強化チームAのSC軽井沢クラブは、日本代表としてパンコンチネンタルカーリング選手権大会(PCCC)に出場する。

表14には、日本ジュニアカーリング選手権大会(JJCC)上位成績チームを示した。2017年～2020年優勝は札幌国際大学(チームかまだ)、2021年優勝は常呂ジュニアである。札幌国際大学は2022年、常呂ジュニアは2021年にJCCで準優勝している。これまでジュニアカテゴリーで活躍してきたチームが頭角を現すようになった。徐々に男子のトップチームの層の厚みが増してきており、国内での競争力が高まりつつある。

表 13. 日本カーリング選手権大会上位成績(2018年～2022年).

	1位	2位	3位	4位
2022(令和3年度)	SC軽井沢クラブ	札幌国際大学	コンサドーレ	北見協会
2021(令和2年度)	コンサドーレ	常呂ジュニア	TM軽井沢	SC軽井沢クラブ
2020(令和元年度)	コンサドーレ	TM軽井沢	SC軽井沢クラブ	名寄市役所
2019(平成30年度)	コンサドーレ	チーム東京	札幌国際大学	名寄協会
2018(平成29年度)	teamIWAI	チーム北海道	軽井沢CC	名寄協会

表 14. 日本ジュニアカーリング選手権大会上位成績(2017年～2021年).

	1位	2位	3位	4位
2021(令和3年度)	常呂ジュニア	札幌国際大学	チーム石村	札幌ジュニア
2020(令和2年度)	札幌国際大学	チームAOKI	常呂ジュニア	青森CA

2019（令和元年度）	札幌国際大学	札幌ジュニア	常呂ジュニア	軽井沢中学校
2018（平成30年度）	チームかまだ	チーム AOKI	SC 軽井沢クラブ Jr.	札幌ジュニア
2017（平成29年度）	チームかまだ	札幌学院大学	軽井沢ジュニア	長野 CA

<女子>

女子の WCF 世界チームランキング（令和4年5月30日現在）を見ると、6位ロコソラーレ、73位中部電力、75位富士急、79位 SC 軽井沢クラブ Jr.（ジュニア日本代表）、84位フォルティウス、161位北海道銀行となっている。ロコソラーレを除いて、例年と比較してランキングが低い傾向にある。やはり、新型コロナウイルス感染症の影響で海外強化合宿を十分に実施できなかったためといえる。

表15に2018年～2022年の令和3年度 JCC 上位成績チームを示した。令和4年度の強化チームには、A ロコソラーレ、B 中部電力、C 北海道銀行およびフォルティウスが指定される。強化チーム C の北海道銀行は、表16に示された2020年 JJCC 優勝チームの選手を主体に構成されたチームである。2021年 JJCC 優勝の SC 軽井沢クラブ Jr.は、2022年世界ジュニアカーリング選手権大会(WJCC)で優勝。全カテゴリーを通じて、初の世界タイトル（金メダル獲得）となった。このチームは2019年 JJCC で優勝し、2020年 WJCC にも出場している（4位）。こうした国際試合経験の蓄積が好結果をもたらした要因と考えられる。男子と同様に、ジュニアカテゴリーで活躍してきたチームがトップチームに加わり、国内での競争力を高めている。

表15. 日本カーリング選手権大会上位成績（2018年～2022年）。

	1位	2位	3位	4位
2022（令和3年度）	ロコソラーレ	中部電力	北海道銀行	フォルティウス
2021（令和2年度）	北海道銀行	ロコソラーレ	中部電力	富士急
2020（令和元年度）	ロコソラーレ	中部電力	北海道銀行	富士急
2019（平成30年度）	中部電力	ロコソラーレ	北海道銀行	富士急
2018（平成29年度）	富士急	北海道銀行	中部電力	青森 Jr

表16. 日本ジュニアカーリング選手権大会上位成績（2017年～2021年）。

	1位	2位	3位	4位
2021（令和3年度）	SC 軽井沢クラブ Jr.	名寄協会 JC	チーム大関	札幌協会
2020（令和2年度）	札幌協会	SC 軽井沢クラブ Jr.	名寄協会 JC	チーム札幌
2019（令和元年度）	SC 軽井沢クラブ Jr.b	札幌協会	SC 軽井沢クラブ Jr.a	チーム妹背牛
2018（平成30年度）	SC 軽井沢クラブ Jr.a	青森県協会	Karuizawa Jr.	札幌 CA
2017（平成29年度）	名寄ジュニアクラブ	Karuizawa Jr	青森県協会	札幌ジュニア

<ミックスダブルス>

日本の WCF 世界ランキングは13位である。オリンピックの出場数は10であるので、日本がオリンピックに出場するのは容易ではないといえる。ミックスダブルス WCF チームランキングで日本最上位は、152位の松村・谷田である。当チームにとってミックスダブルス初の国際大会となったオリンピック最終予選(OQE)の結果は大変厳しいものとなった。国際大会経験のある4人制トップチームの選手であっても、初のミックスダブルスの国際大会で結果を残すのは容易ではないことを痛感させられた。その後、2022年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会(WMDCC)に出場し、予選グループ A5位（6勝3敗）、全体で9位という成績を収めた。OQE の経験をいかし、この大会ではミックスダブルスにおける特有の戦略やスキルなどが大きく改善され、プレーオフ進

出まであと1勝という結果であった。ミックスダブルスの国際競技力向上には、ミックスダブルスの国際大会における経験が必要といえる。

表17には、2018年～2022年日本ミックスダブルスカーリング選手権大会(JMDCC)上位成績チームを示した。ミックスダブルス強化チームも男子、女子と同様な方法で指定している。しかし、令和3年度JMDCCは中止となったので、令和4年度ミックスダブルス強化チームは、前年度強化チームを引き続き指定することとなった。2022年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会(WMDCC)日本代表の松村・谷田を強化チームA、吉田・松村をB、小穴・青木およびチーム柳澤をCとした。

表17. 日本ミックスダブルスカーリング選手権大会上位成績チーム(2018年～2022年)。

	1位	2位	3位	4位
2022(令和3年度)	中止			
2021(令和2年度)	吉田・松村	松村・谷田	小穴・青木	チーム柳澤
2020(令和元年度)	松村・谷田	藤澤・山口	吉田 清水	北見工業大学
2019(平成30年度)	藤澤・山口	鈴木・平田	札幌国際大学	藤澤・小野寺
2018(平成29年度)	藤澤・山口	北澤・平田	吉田 清水	チーム北村
2017(平成28年度)	チーム阿部	チーム青木	チーム松村	苫米地

1-3 : 国際競技力向上に向けた強みと弱み

国内に公的施設の通年型カーリング専用施設が六か所ある(軽井沢町, 札幌市, 北見市, 稚内市, 青森市)。これらの地域の選手にとってシーズンに関係なくオンアイス練習を一定量確保できることが優位な点である。オンアイスでの基礎練習を十分に行い、基本動作の技術を確実に習得することが、国際大会での安定したパフォーマンス発揮につながっている。

日本女子の強みは、国内の有力チームが複数あることである。北京大会までは、4チーム(中部電力, ロコソラーレ, フォルティウス, 富士急)が鎬を削ってきた。国際競技力向上を図るための海外強化合宿を実施することができる財源のあるチームである。また、北海道銀行やSC軽井沢クラブJrなど、これまでジュニアの категорияで活躍してきた若手チームが台頭してきている。今後は国内での競争は激化すると予想され、国内チームのさらなる競技力向上につながると考えられる。

一方、男子トップ選手が競技を継続する環境が十分に整備されていないことが多い。さらに、ジュニアおよび大学のカテゴリーの強化選手にとって、海外強化合宿を実施するのに限られた期間しかないことや、強化チームや選手をサポートする体制が十分に整備されていないことが問題となっている。これらの強化チームを指導する人材確保し、選手を育成・強化するシステムを構築し、より多くのチームや選手を海外強化合宿に派遣し、WCT大会に参戦させることも課題となっている。

弱みとしてあげられることは、他競技と比較して登録競技者数が少なく(男子訳1600名, 女子は約800名)、国内の選手層が薄いことである。また、徐々に変わりつつあるが、カーリング選手にはアスリートとしての意識が低い選手が多いこともある。カーリングが老若男女誰でも楽しめるスポーツである反面、単にオリンピックをその延長とらえている選手や指導者、関係者も少なくない。また、強化チームに携わる指導者の不足が問題としてあげられる。絶対的な登録者数が少ない上、選手寿命が長いので、指導者のなり手がいないのが現状である。強化チームに携わる指導者の養成やジュニア育成・強化のための新たな人材育成システムを検討する必要がある。

2. 中長期計画

2-1：育成・強化のためのアスリートパスウェイ

本会の強化方針は、強化チームを海外強化合宿に派遣し、国際競技力向上を図ることである。この方針に基づき、オリンピックでの金メダル獲得を目指して強化活動を進める。カーリングの育成・強化のためのアスリートパスウェイは下図のように示すことができる。現在本協会の強化事業として活動しているのは、Talent3以上の部分になる。

Talent3では、日本ジュニア選手権大会、ブロックジュニア選手権大会出場選手が対象となる。その中からユースオリンピック日本代表を選考し、大会に向けておよそ9カ月間国内外での強化を図る。Talent4においては、日本ジュニア選手権大会優勝チームが対象である。ジュニア日本代表としておよそ10カ月間国内外での強化活動を実施し、世界ジュニア選手権大会に臨むことになる。Elite1では、日本ジュニア選手権大会や全日本大学選手権大会出場選手を対象にワールドユニバーシティゲームズ(WUG)日本代表を選考する。WUG日本代表はおよそ9カ月間強化活動を経て、大会に臨む。また、このレベルでは日本選手権大会3位および4位チームの強化チームCも対象となる。海外強化合宿に派遣し、国際競技力向上を図る。Elite2においては、日本選手権大会優勝チーム（強化チームA）と準優勝チーム（強化チームB）が対象となる。強化チームAはパンコンチネンタル選手権大会や世界選手権大会の日本代表となる。より多くの国際経験を積み、WCT世界チームランキングも上位に位置するようになると、ランキング上位チームのみが招待されるグランドスラム大会(GSOC)へも出場できるようになり、国際競技力向上の好循環に入ることができる。Elite3では、オリンピック日本代表や世界選手権大会日本代表（1～6位入賞）のチームが該当する。頂点のMasteryはオリンピックのメダリストである。

今後は、Foundation3からTalent2までの育成の部分の本会として構築する必要がある。U-15カテゴリーの大会を創出し、ジュニアカテゴリーの競技者の確保につなげたいと考える。

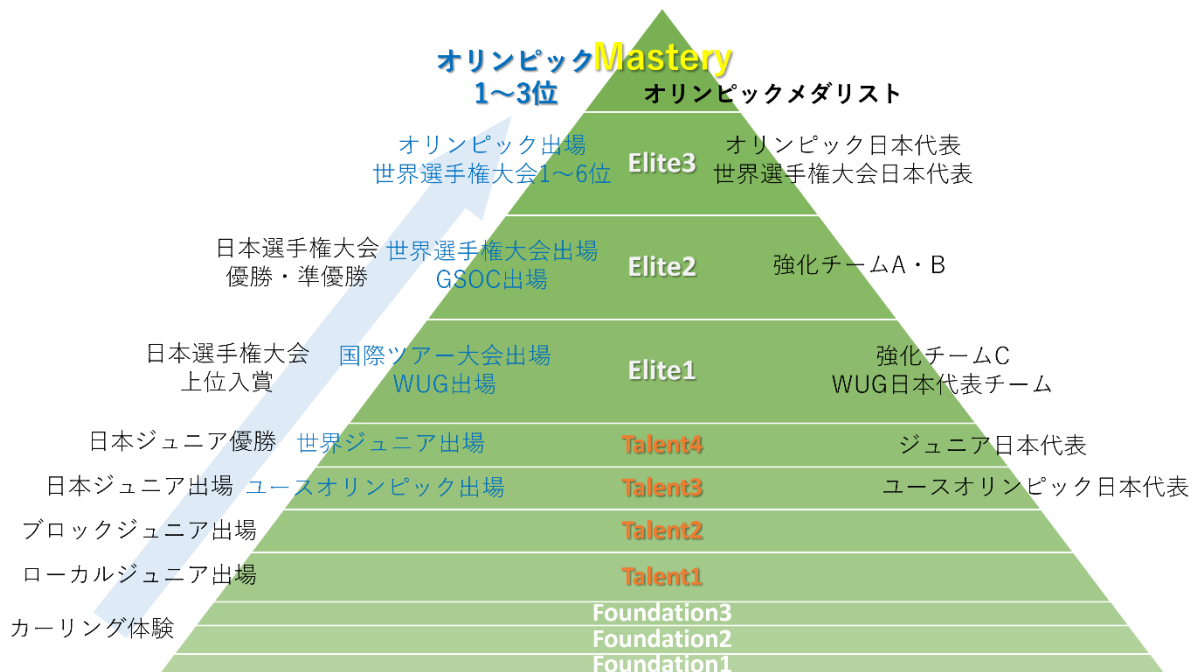


図. カーリングのアスリートパスウェイ（FTEM）.

2-2 : 4 年プラン

2-2-1 : 目標（現状可能な目標）とマイルストーン

1) 目標

オリンピック・パラリンピック競技大会における目標（現状可能な目標）
<男子> 6 位入賞 <女子> 優勝・金メダル獲得 <ミックスダブルス> 8 入賞

▼目標を設定した理由や根拠

<男子> まずは堅実に出場権獲得を目指し、出場できた場合は 6 位入賞を狙う。北京大会で出場を逸しているため。オリンピックの出場チーム数は 10 である。日本の WCF 世界ランキングは 10 位であるので、実力的にはボーダーラインといえる。男子のオリンピック出場するレベルのチームは実力が伯仲しており、現状では出場すること自体が困難であるため。
<女子> 日本女子は平昌大会（銅メダル）、北京大会（銀メダル）と二大会連続でメダルを獲得することができた。2026 年ミラノ・コルティナ大会においては、それ以上の成績を目指し、優勝（金メダル獲得）を目標とする。
<ミックスダブルス> まずは堅実に出場権獲得を目指し、出場できた場合は 8 位入賞を狙う。二大会で出場を逸しているため。オリンピックの出場は 10 チーム。日本は WCF 世界ランキング 13 位で、ランク外の実力といえる。オリンピック出場するレベルのチームは実力が伯仲しており、現状では出場すること自体が非常に困難であるため。

2) 目標達成に向けたマイルストーン

年度	マイルストーン（検証指標）	結果
2022	<男子> 2023 年世界男子カーリング選手権大会プレーオフ進出（6 位以内） 2022 年パンコンチネンタルカーリング選手権大会 5 位以内 WCF チームランキング 25 位以内 1 チーム, 35 位以内 1 チーム, 40 位以内 1 チーム <女子> 2023 年世界女子カーリング選手権大会プレーオフ進出（6 位以内） 2022 年パンコンチネンタルカーリング選手権大会（5 位以内） WCF チームランキング 16 位以内 1 チーム, 30 位以内 2 チーム <ミックスダブルス> 2023 年世界男子カーリング選手権大会プレーオフ進出（6 位以内）	
2023	<男子> 2024 年世界男子カーリング選手権大会プレーオフ進出（6 位以内） 2023 年パンコンチネンタルカーリング選手権大会 5 位以内	

	<p>WCF チームランキング 20 位以内 1 チーム, 30 位以内 1 チーム, 35 位以内 1 チーム</p> <p><女子></p> <p>2024 年世界女子カーリング選手権大会プレーオフ進出 (6 位以内)</p> <p>2023 年パンコンチネンタルカーリング選手権大会 (5 位以内)</p> <p>WCF チームランキング 12 位以内 1 チーム, 25 位以内 2 チーム</p> <p><ミックスダブルス></p> <p>2024 年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会プレーオフ進出 (6 位以内)</p>	
2024	<p><男子></p> <p>2025 年世界男子カーリング選手権大会プレーオフ進出 (6 位以内)</p> <p>2024 年パンコンチネンタルカーリング選手権大会 5 位以内</p> <p>WCF チームランキング 16 位以内 1 チーム, 25 位以内 1 チーム, 30 位以内 1 チーム</p> <p><女子></p> <p>2025 年世界女子カーリング選手権大会メダル獲得</p> <p>2024 年パンコンチネンタルカーリング選手権大会 (5 位以内)</p> <p>WCF チームランキング 10 位以内 1 チーム, 20 位以内 2 チーム</p> <p><ミックスダブルス></p> <p>2025 年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会プレーオフ進出 (6 位以内)</p>	
2025	<p><男子></p> <p>2025 年パンコンチネンタルカーリング選手権大会 5 位以内</p> <p>WCF チームランキング 16 位以内 1 チーム, 25 位以内 2 チーム</p> <p>2026 年世界男子カーリング選手権大会プレーオフ進出 (6 位以内)</p> <p><女子></p> <p>2025 年パンコンチネンタルカーリング選手権大会 5 位以内</p> <p>WCF チームランキング 10 位以内 1 チーム, 20 位以内 2 チーム</p> <p>2026 年世界女子カーリング選手権大会プレーオフ進出 (6 位以内)</p> <p><ミックスダブルス></p> <p>2025 年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会 16 位以内</p>	

▼マイルストーンを設定した理由や根拠

<男子>

オリンピック出場権資格が得られるのは、オリンピック前 2 年間の世界カーリング選手権大会(WMCC)で獲得した出場資格ポイントの最上位 7 チーム、オリンピック最終予選最上位 2 チーム、開催国の 1 チームである。

WMCC でオリンピック出場資格ポイントを確実に獲得するには、二大会連続で 7 位以上の成績を収めることである。なので、WMCC では常にプレーオフ進出 (6 位以内) を目指すことで、オリンピック出場に近づくことができるため。さらに、オリンピック前年の WMCC でプレーオフ進出チームの国がオリンピックでメダルを獲得する確率が高いため。

さらに、WCF 世界チームランキングの目標も設定する。オリンピック、世界選手権大会のメダル獲得国は、WCF 世界チームランキングの上位チームの国であるため。ランキング 16 位以内のチームはグランドスラム大会に招待され、国際競技力向上の好循環に入ることができるため。

<女子>

マイルストーンとして、2024 年世界選手権大会はプレーオフ進出、2025 年同大会はメダル獲得と、2026 年ミラノ・コルティナ大会金メダル獲得に向けてステップアップするように設定した。オリンピックでのメダル獲得国は、直近 2 年の世界選手権大会でメダルを獲得している傾向にあるため。

さらに、WCF 世界チームランキングの目標も設定する。オリンピック、世界選手権大会のメダル獲得国は、WCF 世界チームランキングの上位チームの国であるため。特にランキング 10 位以内のチームはメダルを獲得する可能性が非常に高いため。

<ミックスダブルス>

オリンピック出場権資格が得られるのは、オリンピック前 2 年間の世界カーリング選手権大会(WMDCC)で獲得した出場資格ポイントの最上位 7 チーム、オリンピック最終予選最上位 2 チーム、開催国の 1 チームである。

WMDCC でオリンピック出場資格ポイントを確実に獲得するには、二大会連続で 7 位以上の成績を収めることである。なので、WMCC では常にプレーオフ進出 (6 位以内) を目指すことで、オリンピック出場に近づくことができるため。さらに、オリンピック前年の WMCC でプレーオフ進出チームの国がオリンピックでメダルを獲得する確率が高いため。

2-2-2：目標達成のための戦略方針

1) 成功要因 ※優先順位が高い順に記載

	目標達成に重要となる要因（成功要因）
①	海外強化合宿の実施（国際大会への参戦）
②	国際競技力の高いチームを日本代表として選出するシステムの構築
③	主要国際大会でのストーン、アイスに関する情報収集・分析，強豪国チームに対する戦術情報収集・分析
④	主要国際大会でのコンディション維持

▼上記成功要因の設定理由及び到達基準

- ①男子，女子の強化チーム A・B は，国際大会（海外 4，国内 4，計 8 大会）の出場を目指す。ミックスダブルスの強化チーム A・B は，国際大会（海外 2 大会）の出場を目指す。
- ②日本選手権大会への前年度優勝チーム，準優勝チーム，WCF ランキング上位チーム，ワイルドカードチームの出場。日本ミックスダブルスカーリング選手権大会への強化委員会推薦チームの出場。
- ③国際大会でのストーンチェック，海外チームの戦術分析・スコア分析
- ④国際大会へのトレーナーの派遣

2) 戦略：成功要因を踏まえ、目標と現状のギャップを埋めるための具体的な方策

① 国際競技力向上のための強化方針は，国内有力チームを海外強化合宿に派遣して，海外強豪チームとの試合を経験させることである。スウェーデン，韓国，カナダ，スイス，カナダ，ロシア，スコットランドなどの強豪国のチームは，1 シーズン中にワールドカーリングツアー（WCT）などの国際大会に 10～15 回出場している。世界カーリング連盟(WCF)世界チームランキングで 20 位以内ランクされるようになると，世界選手権大会やオリンピックでのメダルの可能性が出てくる。日本の強化チームもそれと同等数の国際大会，少なくとも WCT10 大会に出場し，国際経験を積む必要がある。WCF 世界チームランキングで上位にランクされるメリットは強化の好循環に入れることだ。つまり，ランキング上位のチームはグラندスラム大会に招待され出場できるようになり，強豪チームとの対戦も増加するうえ，大会の結果に対して付与されるポイントも高くなる。複数の国内チームがこのレベルで競合する状況を作ることが望まれる。ミックスダブルスの強化チームは，4 人制チームでの活動との兼ね合いを考慮しても，海外の国際大会を少なくとも 2 大会は経験しておく必要がある。

② 日本カーリング選手権大会(JCC)は，世界カーリング選手権大会とパンコンチネンタルカーリング選手権大会の日本代表（男子，女子）を決定する大会である。これらの国際大会には，国際競技力が高いチームを日本代表として間断なく派遣し続ける必要がある。強化チーム A・B や世界チームランキング上位チーム等が JCC に出場できる条件を整備する。また，日本ミックスダブルスカーリング選手権大会(JMDCC)は，世界ミックスダブルスカーリング選手権大会の日本代表を決定する大会である。ミックスダブルス強化チーム A・B と強化委員会推薦チーム 4 チームが出場できる条件を整備する。こうすることで，JCC や JMDCC における競技水準が向上し，出場チーム間でより高い競技水準で競い合ったうえで，日本代表が選出できるようになる。

さらに，JCC や JMDCC においては，主要な国際大会と同等の条件のストーンやアイスなどの環境を提供することが求められる。アイスメイク研究会，競技委員会の協力のもと，環境を整備する。

③ カーリングの競技力の要素には，アイスの読みとストーンのマネジメントがある。選手個人のスキル，チームのパフォーマンスはこれらの要素と深く関係している。WCF 主催の主要国際大会については，アイスやストーンの情報を日本カーリング協会の強化委員会が管理し，強化チーム間で共有する。また，大会でのデータ収集は強化スタッフがサポートし，チームに提供する。また，カーリングは戦術や戦略が重要な種目である。WCF 関連大会にとどまらず，各国選手権大会や国際ツアー大会の戦術やスコアの分析が求められる。今後，分析スタッフの雇用や人材育成を検討していく。

④ 主要国際大会は一週間以上にわたるので、選手のコンディション維持が必要である。特に世界選手権大会は予選の7日間一日2試合、さらにプレーオフに進むと9日間にもおよぶ。大会の最後まで高いレベルのパフォーマンスを発揮するには、当然ながら選手には体力向上のために継続的なフィジカルトレーニングが求められる。さらに、より良いコンディションを大会で維持するには、トレーナーによる身体のケアやバランスのよい食事が必要となってくる。本会医科学委員会と連携し、トレーナーや管理栄養士を国内・外の強化合宿や主要な国際大会に派遣してもらい、選手のコンディションの維持・向上をサポートする体制を充実させていく。

2-2-3 : ターゲットアスリート、指導者（コーチ）、強化スタッフ

1) ターゲットアスリート

①ターゲットアスリート一覧（別添 1）

②日本代表選手の選考方法

世界カーリング選手権大会、パンコンチネンタルカーリング選手権大会の日本代表選手（男子・女子）は、原則日本カーリング選手権大会優勝チームから選考される。また、2026年ミラノ・コルティナ大会日本代表選手（男子・女子）の選考方法については現在ワーキンググループが検討中で、令和4年末までに決定し、公表する予定である。

世界ミックスダブルスカーリング選手権大会の日本代表選手は、原則日本ミックスダブルスカーリング選手権大会優勝チームから選考される。また、2026年ミラノ・コルティナ大会日本代表選手（ミックスダブルス）の選考方法は現在検討中で、令和4年末までに決定し、公表する予定である。

世界ジュニアカーリング選手権大会の日本代表選手（男子・女子）は、原則日本ジュニアカーリング選手権大会優勝チームから選考される。ワールドユニバーシティゲームズやユースオリンピックの日本代表選手については、都道府県協会から推薦された選手の中から選考会を経て選考される。いずれの категорияにおいても、強化委員会が推薦した選手を理事会で承認して、日本代表選手として決定する。

2) 指導者（コーチ）、強化スタッフ

①指導者（コーチ）、強化スタッフ一覧（別添 1）

②チーム構成と選考方法

日本代表チームの監督、指導者、強化スタッフは、強化委員会から推薦された者を理事会で承認して決定する。

2-3 : 8年プラン

2-3-1 : 目標（現状可能な目標）とマイルストーン

1) 目標

オリンピック・パラリンピック競技大会における目標（現状可能な目標）
<男子> メダル獲得 <女子> メダル獲得 <ミックスダブルス> 6位入賞

▼目標を設定した理由

<男子・女子> 現在の強化チームに加え、若手選手を中心としたチームが競合して、2030年大会を目指すことを想定している。目標達成に向けたマイルストーンを達成できれば、自ずと男子・女子ともにオリンピックでのメダル獲得が期待できる。
<ミックスダブルス> 男子・女子の選手層が現在より厚くなり、国際競技力の高い選手が増加すると想定している。そういった選手がミックスダブルスの競技に専念できる条件が揃えば、より上位の成績を狙うことができる。

2) 目標達成に向けたマイルストーン：8年先の目標達成に向けた最初の4年間におけるマイルストーン

年度	マイルストーン（検証指標）	結果
2022/4 ～2024/3	<男子> 2023年・2024年世界男子カーリング選手権大会プレーオフ進出 2023年・2024年世界ジュニアカーリング選手権大会 7位入賞 2023年 WUG7位入賞 <女子> 2023年・2024年世界女子カーリング選手権大会プレーオフ進出 2023年・2024年世界ジュニアカーリング選手権大会 7位入賞 2023年 WUG7位入賞 <ミックスダブルス> 2023年・2024年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会プレーオフ進出（6位以内）	
2024/4 ～2026/3	<男子> 2025年・2026年世界男子カーリング選手権大会プレーオフ進出 2025年・2026年世界ジュニアカーリング選手権大会 7位入賞 2025年 WUG7位入賞	

	<p><女子></p> <p>2025 年世界女子カーリング選手権大会メダル獲得, 2026 年同大会プレーオフ進出</p> <p>2025 年・2026 年世界ジュニアカーリング選手権大会 7 位入賞</p> <p>2025 年 WUG7 位入賞</p> <p><ミックスダブルス></p> <p>2025 年世界ミックスダブルスカーリング選手権大会プレーオフ進出 (6 位以内), 2026 年同大会 16 位以内</p>	
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

▼マイルストーンを設定した理由

<男子・女子>

現在の強化チームを対象としたマイルストーンは、4 年プランと同じものにした。

ジュニアチームおよび若手を中心としたチームを対象としたマイルストーンは、世界ジュニアカーリング選手権大会 (WJCC), WUG 7 位入賞以上とした。WJCC と WUG では 7 位以上の成績を取めると、次大会の出場権を獲得することができる。中長期的な強化を考えると、日本チームとして少なくとも WJCC や WUG に出場し続けていくことが重要と考える。世界的にも、WJCC や WUG 出場選手がのちにオリンピックで活躍する傾向にある。海外の同世代のチームと対戦する機会が得られる。

<ミックスダブルス>

強化委員会推薦チームを中心とする強化方針には大きく変わらないので、マイルストーンは 4 年プランと同じものとした。

2-3-2 : 8 年後の目標達成を見据えた育成・強化の基本方針

- ジュニア強化チーム, WUG 強化チームの海外強化合宿派遣
ジュニア日本代表と WUG 日本代表を海外で実施される国際ツアー大会に出場させる。学業に支障がないように、夏季休業中に海外強化合宿を実施し、国際試合経験を積ませる。
- ジュニア強化チーム, WUG 強化チームの国内ツアー大会等への参戦
ジュニア日本代表, WUG 日本代表に国内ツアー大会に優先的に出場できるように、関係者に協力を求める。また、YOG 日本代表が日本ミックスカーリング選手権大会への優先的に出場できるように、関係者に理解をえる。
- ジュニア担当コーチのブロック巡回指導やジュニア国内合同強化合宿

2-3-3 : ターゲットアスリート、指導者（コーチ）・強化スタッフ

1) ターゲットアスリート

①ターゲットアスリート一覧（別添 1）

②活躍が期待されるアスリートの理想像

▼目標達成の可能性を有するアスリートの要素・資質

「カーリング精神」が求める「good sportsmanship」「kindly feeling」「honourable conduct」を体現できるアスリート。

2) 指導者（コーチ）・強化スタッフ

①指導者（コーチ）・強化スタッフ一覧（別添 1）

②活躍が期待されるコーチの理想像

▼アスリートのパフォーマンスを最大限に引き出すことができるコーチやスタッフの要素・資質

指導者・強化スタッフの理想像は、「カーリング精神」が求める「good sportsmanship」「kindly feeling」「honourable conduct」を体現できる者

指導者の資質は、国際大会での指導経験が豊富であり、アスリートセントードの考えで取り組めること。

強化スタッフの要素はスポーツ科学、スポーツ医学、栄養学、マネジメント、などの知識やスキルをいかして国際競技力向上のために活動できること。

3. 強化戦略プラン推進体制と環境整備

3-1 : 拠点

1) 練習拠点の必要性和活動方針

国内に公的施設の通年型カーリング専用施設が六か所ある（軽井沢町，札幌市，北見市，稚内市，青森市）。これらの地域の選手にとってはシーズンに関係なくオンアイス練習を実施することができることが優位な点である。本会強化選手が日常的にオンアイスでの基礎練習を十分に行い，基本動作の技術を確実に習得することが，国際大会での安定したパフォーマンス発揮につながっている。

また，本会の国内強化合宿として，これらの施設を利用している。強化の一環として，国内ツアー大会等への出場を強化チームに対して推奨している。軽井沢アイスパークでの軽井沢国際カーリング選手権大会，札幌市でのとうぎんクラシック，北見市でのアドヴィックスカップおよびアルゴグラフィックスカップ，稚内市での稚内みどり Challenge Cup の事前合宿として利用することもある。

2) 主な活動場所

別添 1 参照

3-2 : 強化戦略プラン推進体制

1) 推進体制図

別添 2 として添付

2) 推進体制

①強化戦略プラン策定・共有

項目	内容
策定者	強化委員長
最終承認者	貝森輝幸
承認方法	理事会での承認
共有範囲	日本カーリング協会関係者全般

②強化戦略プランの実行状況に関するモニタリング及び検証・評価

項目	内容
モニタリング及び検証・評価の項目	マイルストーン
実施時期	年度末（4月下旬）
実施者	強化委員会

4. 別添資料

別添 1) 有望選手及び指導者・強化スタッフ一覧、強化拠点

別添 2) 推進体制図（強化戦略プランを推進する上での実施体制）

別添 3) 年間事業計画

